

News Letter

日本精神障害者リハビリテーション学会



ともに創る、ともに暮らす

- 01 新会長インタビュー
- 02 役員体制
- 03 第31回お台場大会のご案内
- 04 研修セミナーのご案内
- 05 編集後記

2024年10月発行

VOL. 64

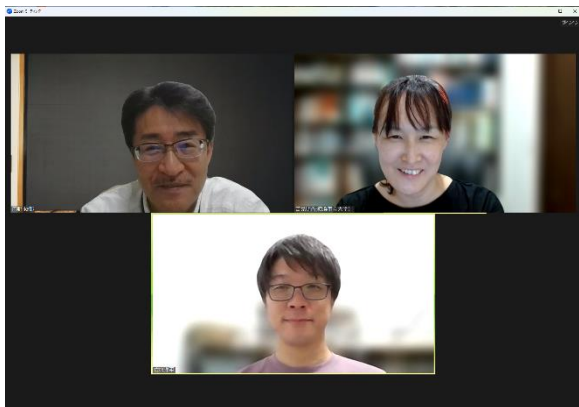


【事務局】 〒115-8560 東京都北区赤羽台一丁目7番11号
東洋大学福祉社会デザイン学部 WELLB HUB-2 20901 研究室（吉田研究室）
<https://japr.jp> Mail : japr.jimukyoku@gmail.com

01 / 新会長インタビュー

日本精神障害者リハビリテーション学会 第8代 内野俊郎会長

2024年度より本学会理事が新しく選任され、それに伴い本学会会長も交代となりました。会長就任のご挨拶は学会ホームページに掲載されておりますが、さらに詳しくお話を聞かせていただく、広報委員によるインタビューを企画し、2024年9月9日 Zoom にて実施しました。その模様をお届けいたします。(黒字インタビュアー)



[内野俊郎会長(上段左)、吉見明香理事(上段右)、佐抜洋平理事(下段)]

▶ 精リハ学会ってどんな学会でしょうか？魅力も含めて教えてください。

精神障害者リハビリテーションを多職種、ユーザーも含めたいろいろな人が集まって今の課題や将来を考える学会ですよね。魅力はいろいろな立場の人がいろいろな意見を自由に出し合える場になっているところ、そういうことを保障している学会なんじゃないかと思います。学会は専門の人たちが難しいことを話し合っていると思われがちですけど、大会は半分お祭りみたいな感じがある。学会初心者が来るのにきっと楽しい学会だと思います。

▶ お祭りとはどんなところでしょうか？

他の学会は「解析しました、こういうことがわかりました」という感じが強いが、「やってみました」、「やってみようと思って、それについてはどう思っている」ということも発表されている。敷居の低さがよい。「やりたいと思っている!」「楽しみ!」といった発表も多く、周辺の企画も大体面白い。

▶ 最近私の周りでは、精神障害の「リハビリテーション」という言葉自体を聞く機会が少なくなっている印象がある。リハビリテーションは私たちが普段行っているかわりやプログラムのほとんどに関係していると思いますが、どのようにその意義や魅力を広く伝えていけばよいでしょうか？

精神科の「リハビリテーション」という概念は薬物療法と診断以外は全部含んでいます。それ(薬物療法と診断)以外のことをやっている人はやってみようということに出会える学会です。どの職種が来てもなるほどと思える話がある。視野も広がると思います。医師が威張っていないのも魅力。精神科のトレーニングを受けていない人も参加できる。

就労支援のスタッフや栄養士さんで参加している方もいますね。



▶今までこの学会はどんな存在でしたか？これからどんな存在になりそうですか？

精神科の世界は薬物療法以外に興味を示すお医者さんが少ないし、それをやっているとちょっと孤独なんですよ。僕にとって精神障害者リハビリテーション学会は自分が大事だと思っていることをやっている先達たちがいて、その先達たちの話を聞いていると勇気が持てて、という場所でした。IMR（Illness management and recovery：疾病自己管理とリカバリー）プログラムの翻訳に関わったことがきっかけで大会に来るようになったのですが、本でしか知らなかったリハビリの重鎮の先生たちのお話がどれもこれも面白かったんです。IMRで関わり始めたときは医者になって10年にもなっていなかったですけど、先輩方にすごく大事にしてもらいました。そんな体験をこれから入ってくる人たちにしてほしいですよ。

会長であることについては、重責を担っている自覚があります。3年（一期）かけて学会にかかわっている人たちと方向性を一緒に考えていきたい。こっちに進むべきだといった大きな指針を私が持っているわけではありませんが、皆で考えていくことが大事なんじゃないかと思っています。

▶3年間でやってみたいことは何ですか？

先ほどもお話しした通り、こっちにというのはないですよ。ただ、お医者さんが威張っていないのは魅力とはいいましたが、ある場所では精神科医も頑張らなければならぬですよ。日本中の医学部精神科でリハビリテーションを学べそうな講座は片手で余るかもしれないくらいマイ

ナーになってきている。精神科医がもっと学会に参画できるような工夫はいると思うんですよ。これは会長がお医者さんであるときにやらなければいけないと思っている。同時に、理事の中にも学会員の中にも増えてきているお医者さん以外の職種の人たちがのびのびと発言をして方向性を決めていけるような雰囲気づくりを作るのが僕の役割だと思っています。今以上に、もっとのびのびとでいいと思うんですよ。会長と助け合おう、という雰囲気がよい。怖くない方がいいですよ、本当に。

▶リカバリーは日本に紹介されていますが、日本の精神科医療は変わっていきませんか？

患者さんの声を聴けば変わらざるを得んと思うんですけどね。現場にいる他の職種の声を聞けば変わると思う。精神科医療は民間に頼りすぎているところはあるかもしれない。リカバリーが浸透していない病院に勤務しているスタッフがリカバリーの概念に触れると、それはそれでつらいと思う。すごいジレンマを感じると思うんです。お医者さんたちが、若い頃にメディカルスタッフともっと触れ合えれば変わるのではないかと感じています。

自分にとってはべてると出会った経験がそれにあたります。一緒にお酒を飲んでね。学会に来たら元気な当事者にいっぱい会える。当事者に直接触れる体験が重要で、そこで希望が持てる。専門職が希望を持たなければ。希望を持っていない専門職がいっぱいいると思いますよ。専門職のリカバリーが先かもしれないですね。

・内野会長はホームページの就任あいさつの中でご自身を第3世代であるとお話しされています（※詳しくはホームページをご覧ください）。世代間のバトンタッチの大切さについてもお話されていますが、内野会長が第4世代に対して、伝えていきたいことはどんなことですか？

学会を立ち上げた第1世代、最近まで学会を支えてくれた第2世代。自分は第3世代。第3世代は若干細いんですよ。人が少ない。第4世代はお医者さん以外の職種が育っていて力があって、先のことも見通してていて、とても期待していて頼もしいです。なので、本当にのびのびとやってもらいたいと思うんですよ。ただ、第4世代にもお医者さんを教育してほしい。力を持っているので。そこまで意識してほしい、と思います。お前の仕事だよといわれてしまうかもしれないから、“も”ですね。 自分がお医者さん以外の職種か

ら山ほど教わった。当事者を元気にする方法を。でも遠慮していわないんですよ。お医者さんにいわれて叱られた経験があったりするから。それをもったいないと思っています。「邪魔をしないお医者さん」を育てないといけない。そういう医者育てるのを手伝ってほしいと思っています。

・最後にひとことお願いします！

精神障害者リハビリテーション学会は気楽に参加できる学会です。ぜひ一度顔を出して雰囲気味わってほしいですね。まったく堅苦しくないんで。ぜひ今年の12月に開催されるお台場大会に来てください。その次は魅力のある北海道を予定していますので遊びがてらぜひ顔をだしてみませんか。集まって楽しくやりましょう。

（インタビューー：広報委員：佐抜、吉見）

02 / 新役員体制

今期の理事の役割が決まりました。任期は、令和6年4月1日～令和9年3月31日の3年間です。どうぞよろしくお願いたします。理事の所属はホームページをご確認ください。※○は委員長

〈学会長〉内野 俊郎

〈副学会長〉岩崎 香、後藤 雅博

〈副学会長/事務局長〉吉田 光爾

以下委員会活動の担当者です。

〈総務企画委員会〉 担当理事：○大石甲、池田望、内野俊郎、西内絵里沙、吉田光爾

〈事務局〉 担当理事：○吉田光爾、池田望

〈大会委員会〉 担当理事：○樽谷精一郎、市来真彦、小野彩香、後藤雅博

〈学会誌編集委員会〉 担当理事：○山口創生、岩崎香、澤田恭一、千葉理恵、吉見明香
編集委員：志村敬親、下平美智代、清家庸佑、中村亮太、廣田美里
学会誌編集事務局：高島徹也(金剛出版)



- 〈広報委員会〉 担当理事：○佐抜洋平、大石甲、吉見明香
- 〈研修委員会〉 担当理事：○坂本明子、大川浩子、彼谷哲志、西内絵里沙
担当委員：和泉亮、船越明子、松長麻美
- 〈研究・実践委員会〉 担当理事：○佐藤さやか、安西信雄、小野彩香
担当委員：瀧本里香、松田康裕、松長麻美、森元隆文
野中賞選考委員：担当理事・委員（松田委員を除く）および國重智宏
- 〈実践賞委員会〉 担当理事：○千葉理恵、市来真彦、大川浩子、澤田恭一、山口創生
担当委員：池田直子、加藤伸輔、佐川まこと、原敬、矢部滋也

顧問：池淵恵美

03 / 日本精神障害者リハビリテーション学会 お台場大会のご案内

日本精神障害者リハビリテーション学会第31回東京お台場大会

～多様性と調和～台場シティで調う～

2024年12月14日（土）～15日（日）

東京有明医療大学（〒135-0063 東京都江東区有明2丁目9番1号）

会長：肥田裕久（医療法人社団宙麦会ひだクリニック理事長/院長）

副大会長：角田秋（東京有明医療大学看護学部看護学科教授）

佐々毅（医療法人社団宙麦会ひだクリニックお台場院長）

実行委員長：中田健士（株式会社MARS代表取締役）

ホームページ：<https://www.ksi21.com/japr31/>

E-mail：japr31@ksi21.com



梨のドリーちゃん ビーナツのホークン



交通アクセス

路線	最寄り駅	キャンパスまでのアクセス
りんかい線	国際展示場駅	徒歩約15分 →道案内
りんかい線	東豊(しのめ)駅	B出口から徒歩約13分 →道案内
ゆりかもめ	有明テニスの森駅	徒歩約13分 →道案内
東京メトロ 有楽町線 ゆりかもめ	豊洲駅	5番出口を出て直進し、①停留所へ 都営バス「東16 東京ビッグサイト」行き「有明小中学校前」下車徒歩2分 都営バス「海01 東京テレポート駅」行き「有明小中学校前」下車徒歩2分 (バス所要時間約10分)
東京メトロ 東西線 都営地下鉄 大江戸線	門前仲町駅	3番出口を出て右へ進み、⑤停留所へ 都営バス「海01 東京テレポート駅」行き「有明小中学校前」下車徒歩2分 (バス所要時間約20分)
JR、東京メトロ	東京駅	東京駅丸の内南口から 都営バス「都05-2 東京ビッグサイト」行き「有明小中学校前」下車徒歩2分 東京駅八重洲口から「東16 東京ビッグサイト」行き「有明小中学校前」下車徒歩2分 (バス所要時間約30分)

大会プログラム

大会プログラムが決定いたしました！

一般公開講演

講演者 北澤 豪（一般社団法人日本障害者サッカー連盟）

大会長講演

情報ライブ ヒダネ屋

MC 肥田裕久(医療法人社団宙麦会ひだクリニック院長/理事長)

キャスター 小河原麻衣(MACHINA 株式会社/医療法人社団宙麦会訪問看護ステーションすてら)

コメンテーター 内野俊郎（久留米大学病院臨床研修センター・久留米大学医学部神経精神医学講座）



准教授/日本精神障害者リハビリテーション学会会長)

コメンテーター 佐々毅 (医療法人社団宙麦会ひだクリニックお台場院長/NPO 法人 日本ソーシャル
フットボール協会理事長)

コメンテーター 角田秋 (東京有明医療大学看護学部看護学科教授)

コメンテーター 中田健士 (株式会社 MARS 代表取締役)

コメンテーター 高橋美久 (株式会社 MARS 就労継続支援 B 型事業所 TERRA 施設長)

大会シンポジウム

あなたの知らないピアの世界

司会 向谷地生良 (社会福祉法人浦河べてるの家理事長/北海道医療大学特任教授)

シンポジスト 伊藤知之 (社会福祉法人浦河べてるの家/ピアサポーター)

シンポジスト 高橋美久 (株式会社 MARS 就労継続支援 B 型事業所 TERRA/ピアサポーター)

シンポジスト 増川ねてる (アドバンスレベル WRAP®ファシリテーター (米国コープランドセンタ
ー認定))

学会理事会企画シンポジウム

学会や研究への障害当事者参加の現状とその意義や課題について考える

コーディネーター 坂本明子 (久留米大学文学部)

コーディネーター 岩崎香 (早稲田大学人間科学学術院人間科学部)

シンポジスト 桐原尚之 (全国「精神病」者集団)

シンポジスト 金原明子 (東京大学医学部附属病院 精神神経科)

シンポジスト 彼谷哲志 (特定非営利活動法人あすなろ)

シンポジスト 山口創生 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

教育講演 I

ザ・ノンフィクション ～精神科リハビリテーシ ョンの未来～

講演者 内野俊郎 (久留米大学病院臨床研修セン
ター・久留米大学医学部神経精神医学講座)

准教授/日本精神障害者リハビリテーション学会
会長)

座長 肥田裕久 (医療法人社団宙麦会ひだクリ
ニック院長/理事長)

教育講演 II

おおしま先生といっしょ～児童精神医療の実際 ～

講演者 大嶋正浩 (医療法人社団至空会メンタル
クリニックダダ院長/理事長)

座長 角田秋 (東京有明医療大学看護学部看護
学科教授)

SST 普及協会シンポジウム

SST 最新の姿

講演者 丹羽真一(公益大学法人福島県立医科大学付属病院会津医療センター特任教授)

思春期・青年期の発達障害の人たちのための SST

講演者 山田智子(総合医療センターひなが/一般社団法人 SSTAR)

心理教育・家族教室ネットワークシンポジウム

講演者 後藤雅博(医療法人崇徳会こころのクリニックウイズ所長)

大会特別企画【浦河べてるの家】

べてるの家の当事者研究 / 子ども当事者研究

大会特別企画【家族・当事者】

家族大集合!～みんなで語ろう、全国家族の輪
デイケア・福祉事業事業所自慢大会～全国の当事者大集合～

野中賞・IPPO 賞 受賞講演

10月中旬頃に受賞者・団体決定

ランチョンセミナー1

デイケアに VR がやってきた!!～FACE DUO
の活かし方を考えよう～

演者 高野隼(関西医科大学総合医療センター)

座長 渡邊博幸(医療法人学術会木村病院院長)

ランチョンセミナー2

より良い主体性(したい性)のある生活を目指して
～LAIのメリット&隠れTDを見逃さない～

演者 肥田裕久(医療法人社団宙麦会ひだクリニック院長/理事長)

共催 ヤンセンファーマ株式会社

ランチョンセミナー3

家族心理教育の意義とやり方

演者 木村尚美(医療法人社団宙麦会ひだクリニックお台場/副院長)

座長 後藤雅博(医療法人崇徳会こころのクリニックウイズ所長)

共催 株式会社中島映像教材出版

ランチョンセミナー4

MARS 創立15年の歩みとべてる創立40年の歩み

共催 株式会社 MARS/社会福祉法人浦河べてるの家

一般演題/ワークショップ・自主企画

一般演題(口演) 60 演題

一般演題(ポスター) 35 演題

ワークショップ・自主プログラム(120分) 19 演題

ワークショップ・自主プログラム(180分) 7 演題



>> 参加案内

今大会はすべてのプログラムを現地開催いたします。

参加費

参加区分	事前参加登録	当日参加登録
学会会員	9,000 円	10,000 円
一般（非会員）	10,000 円	11,000 円
当事者・家族・学生	3,000 円	3,000 円

参加登録期間

現在ホームページで参加登録を受け付けております。

11 月 15 日（金）17：00 までに登録・クレジット決済または銀行振込をお願いいたします。



参加者懇親会

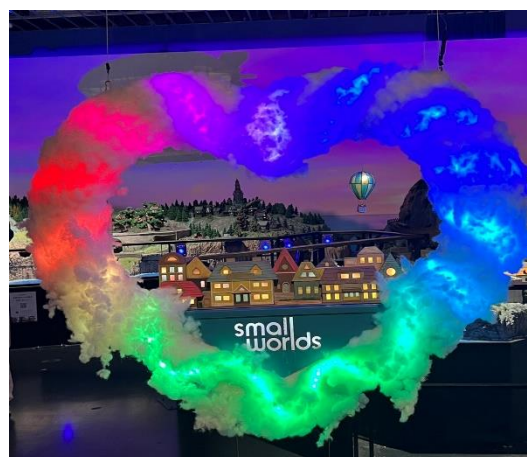
素敵な会場で、食事をしながら楽しく有意義な話に花を咲かせましょう。皆様の沢山のご参加をお待ちしております。

	事前参加登録	当日参加登録※
日 時	12月14日（土）18：00～	
場 所	ミュージアムカフェ（smallworlds 内） 東京有明医療大学より徒歩 12 分 URL： https://smallworlds.jp	
会 費	7,500 円	7,500 円

※当日受付は定員に空きがある場合のみとなります。

- 定員になり次第、申し込みを終了させていただきます。また、定員（250 名）に達した際には、当日受付は出来ませんのでご注意ください。
- 20 歳未満の方は、お飲み物はソフトドリンクのみのご提供となります。

- 懇親会は、学会参加の方であれば会員でなくても参加可能です。
- 懇親会にお申込みされた方は、展示スペースも無料でご観覧いただけます。



≫ お台場大会 研修セミナー案内

研修委員会 坂本明子
研修セミナーの内容を簡単にご紹介します。登壇者は前述のプログラムをご確認ください。

学会特別研修セミナー

精神障害者リハビリテーション学会 30年の歴史をキーパーソンが語り合うー (第2弾) 学会創立時に大事にした理念と今後の発展への期待

昨年の岡山大会で、「精神障害者リハビリテーション学会発足時の「初心」と「展開」ー約30年

の歴史をキーパーソンが語り合う」という学会特別研修セミナーが企画されました。精神障害者リハビリテーションを発展させてきた第2世代から第3世代へとバトンが渡されていこうとしている今だからこそこの企画です。本学会設立時に関わっておられた安西信雄先生、松為信雄先生、田中英樹先生から「学会設立前の状況と設立のニーズ」と「研究会時代に議論されたこと」について語って頂いたのですが、多領域の先生方が集った学会設立時の情熱そのままに、話が尽きずに時間となりました。お話はまさに日本における精神障



害者リハビリテーションの歴史を知るものであり、魅力を知る機会となりました。

そして、今回は第2弾ということで、再び、安西信雄先生、松為信雄先生、田中英樹先生に登壇頂きます。そして「学会創立時の理念と合意事項、その後の展開」を振り返って頂き、「今後の発展への期待」をそれぞれのお立場からご発言頂きます。精神障害者リハビリテーション学会の過去を知り、未来を語る研修セミナーです。多くの方のご参加をお待ちしております。

学会研修セミナーⅠ

障害者権利条約の対日総括所見と精神保健福祉法改正

2022年は精神保健福祉の法制度を考える際に2つの大きな出来事がありました。1つは8月の障害者権利条約の対日審査です。強制医療や強制入院の廃止などを含めて日本政府に対して要請する総括所見を公表しています。2つ目は12月の精神保健福祉法改正です。法の目的に精神障害者の権利擁護を図るものであることが明確にされ、医療保護入院の期間制限や精神科病院における虐待防止の通報義務が明記され、入院者訪問支援事業が創設されました。法改正は比較的大きなものでしたが、総括所見の要請にはまだまだ遠く及んでいません。長年、精神障害のある人の人権と法について取り組んでおられる池原毅和弁護士に、強制治療や入院に依存しない世界の実践や動向、ガイダンスなどを紹介いただき、人権を侵害しない精神保健福祉を実現するための道筋を考えます。

学会研修セミナーⅡ

自分の実践を学会発表で効果的な伝えるためのスキルアップ講座

学会に参加して、他の方の実践を聞いてわくわくしたり、刺激を受けたりした経験はありませんか？学術大会は、実践家同士の貴重な情報交換の場でもあります。大会に参加されるなかで、自分も発表してみたいけれど、そもそも発表ってどうしたらいいんだろうか？と感じている方や、すでに発表の経験がある方でも、もっと日々の実践について上手く伝えることはできないだろうか？と感じたりしている方もいらっしゃるのではないでしょうか。本研修では、効果的な学会発表のために、発表方法やスライド作成に関する基本的なスキルや小技について紹介していただきます。学会発表をするのはハードルが高いと思っていられる方も、この研修を受けることで「よし、やってみよう！」という気持ちになれることでしょう。学会発表に関心があるけれども、なかなか一步を踏み出せなかった方、発表の経験はあるけれど、より良い発表をしたい方、どちらも大歓迎です。ぜひこの機会にお越しください。

学会研修セミナーⅢ

初めての人も、知ってる人も、実践してる人も、一緒に学びを深めよう！～みんなに笑顔がかえるストレングスモデル実践～

ストレングスモデルは、米国カンザスで1990年代にチャールズ・A・ラップらによって提唱され発展した包括的なケースマネジメントの技法・システムです。ときどきですが「ストレングス」を見ることやそれに着目した支援と誤解されることも見受けられます。2000年代以降にはスト

レングスモデルの科学的検証がなされ、エビデンスに基づく実践の一つでもあります。このセミナーではストレングスモデルの根底にある哲学を学び、実際に現場で活用している実践者からの報告、そして参加者の皆さんとのワークを通して理解を深めるといった内容を企画しています。講師

はストレングスモデルに関する著書の翻訳や講義でもご活躍の久永さん、ストレングスモデルを活用した地域支援に従事され、普及研修にも熱心に取り組まれている須田さんをお願いしました。お二人の人柄も伝わる、豊かなセミナーになることと思います。ぜひご参加ください。

>> 編集後記

お台場大会まであと2か月となりました。大会関係者、学会関係者一同、会場にて皆様とお会いできることを楽しみにしております。広報委員として、お仕事に携わらせていただき、一番感じるのは人と人がつながって、新しい知識や新しい経験を得ることがとても大きな力になるということです。そんな体験を是非学会にいらした皆様に体験していただき、それぞれの場所に戻って、日常、臨床に生かし、それが日本の精神科医療を変えていく大きな原動力になることを確信しております。微力ながら広報委員として3年間頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。(広報委員：吉見明香)

今回は目玉企画として、学会長インタビューを実施しました。内野学会長の親しみやすさを感じていただけたのではないのでしょうか。インタビューにもありましたとおり、当学会は「いろいろな立場の人がいろいろな意見を自由に出し合える場になっているところ、そういうことを保障している」学会であります。まだ参加したことがない人も、最近参加できていなかった人もお台場に希望を探しに来ませんか？(広報委員：佐抜洋平)

News Letter

VOL.64

2024年10月発行

日本精神障害者リハビリテーション学会

【事務局】

〒115-8560 東京都北区赤羽台一丁目7番11号

東洋大学福祉社会デザイン学部 WELLB HUB-2 20901 研究室 (吉田研究室)

<https://japr.jp> Mail : japr.jimukyoku@gmail.com

